

福島商工会議所はこのほど、同所の所報・会報誌の封筒素材をプラスチック製から環境に配慮した紙製に変更した。同所会員の製造業者らで組織する工業部会が2019年から取り組んでいるSDGsに関する研究・普及活動の一環。部会では、「SDGsにおける実践可能な目標に取り組み、理念に基づいての活動を行う」を方針に掲げ、生産現場における資源の再利用や廃棄物削減などの省資源化に関する活動・検討を

福島 紙製封筒で環境に配慮 SDGs 推進活動を展開

重ねてきた。活動の間264キログラムのプラスチックの削減を見込みにリサイクルマークがなく、素材もプラスチックに属し廃棄物として処理されていることから、カーボンニュートラルとプラスチックの排出抑制、並びに資源循環を同時に達成できる紙製に切り替え、年



SDGsの取り組みの一環として独自開発した紙製の封筒で、プラスチックが大きな問題となっており、積極的にSDGsを推進していく。

8月31日には、全国の商工会議所へ同事業の展開を促すため、工業部会会長らが日商を訪問し、意見交換を実施。加藤利夫工業部会長は、「気候変動も、環境負荷を軽減するために、積極的にSDGsを推進していく。」と強調した。今後

「2030年度に向けたSDGsの達成年度である2030年度に向け、各地商工会議所が取り組むことで、カーボンを削減し、環境負荷を軽減し、積極的にSDGsを推進していく。」と強調した。今後